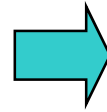


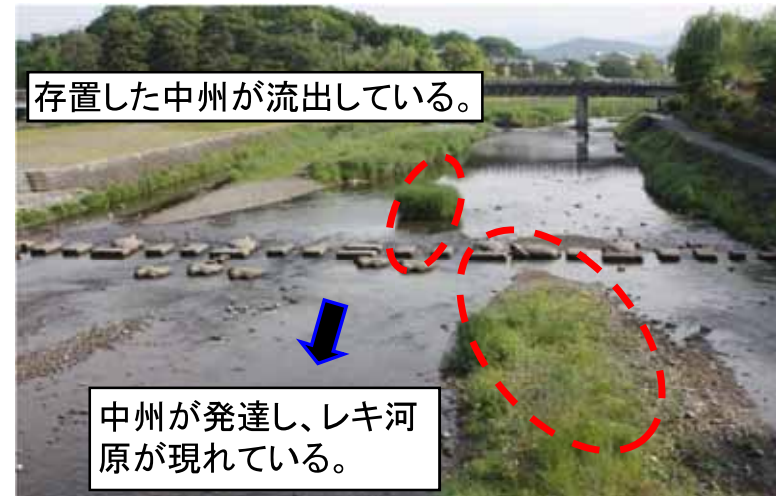
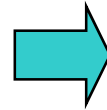
鴨川・高野川 中州等除去箇所 の 経年変化

■平成21年度 施工箇所【除去後:H22.2.26 → 現在:H24.5.16】

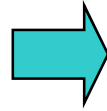
①二条大橋～四条大橋 (御池大橋下流)



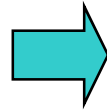
②賀茂大橋～出町橋、(高野川)～河合橋 (賀茂大橋上流)



③御菌橋～西賀茂橋（御菌橋上流）

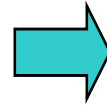


④高野橋～馬橋（松ヶ崎人道橋下流）

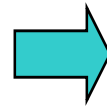


■平成22年度 施工箇所【除去後:H23.3.16 → 現在:H24.5.16】

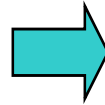
①丸太町橋～荒神橋（荒神橋下流）



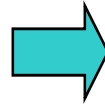
①丸太町橋～荒神橋（荒神橋上流）



②賀茂川通学橋～庄田橋（志久呂橋下流）



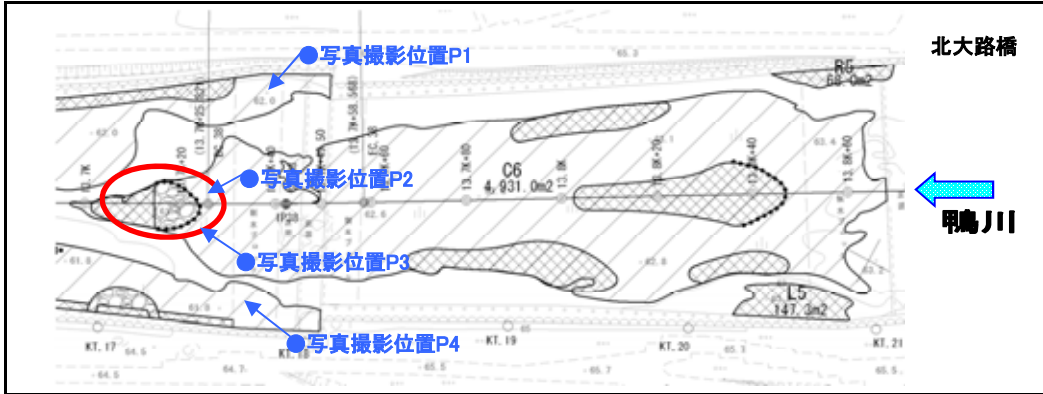
②賀茂川通学橋～庄田橋（志久呂橋上流）



⑤ 鴨川・高野川 中州等のモニタリングシート (1/2)

施工箇所	鴨川 北大路橋下流中州	施工年度	2012年2月
モニタリング日時	2012年4月19日	天候	曇り
		気温	℃ (12:00)
		実施者	(株)建設技術研究所 白井

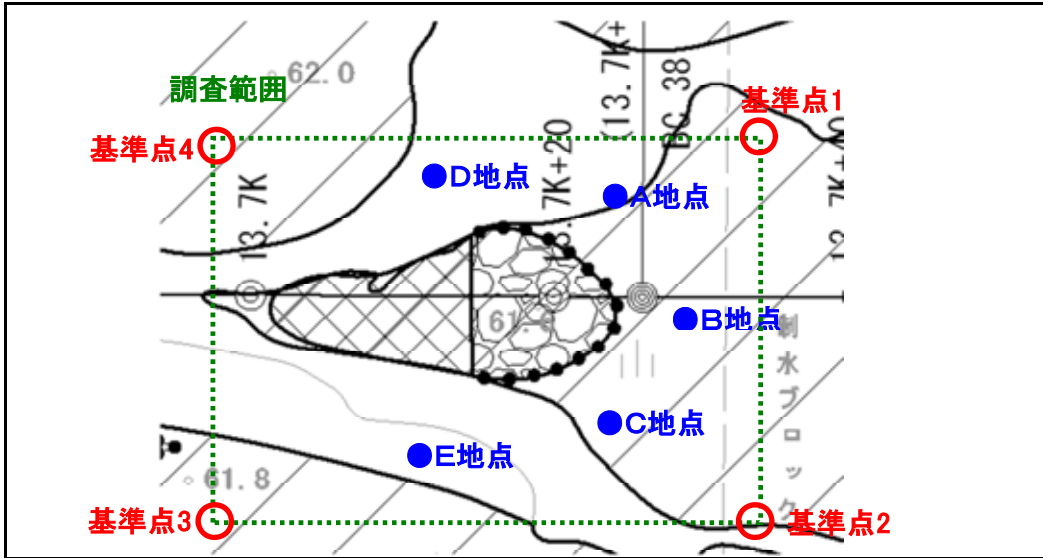
■位置図



■基準点等の座標

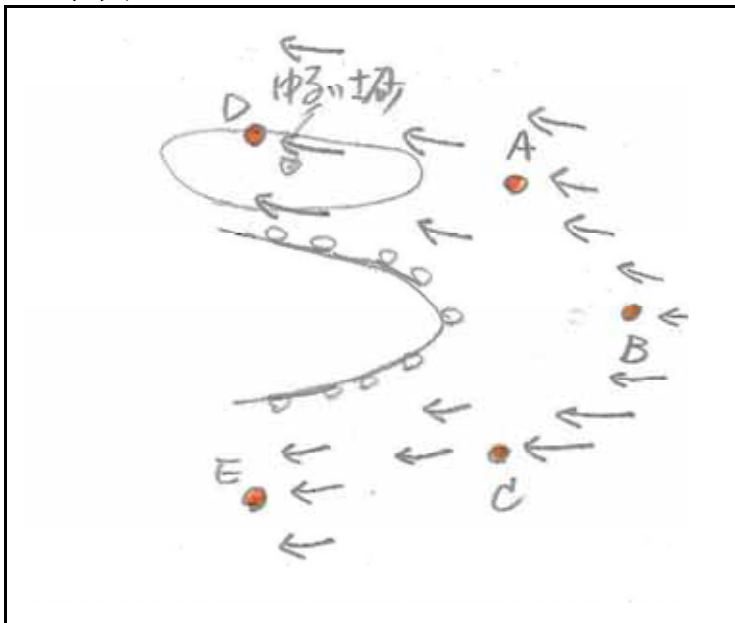
地点	GPS座標
定点P1	N 35° 02' 31.78"
	E 135° 45' 48.62"
定点P2	N 35° 02' 32.16"
	E 135° 45' 49.70"
定点P3	N 35° 02' 32.33"
	E 135° 45' 49.45"
定点P4	N 35° 02' 31.85"
	E 135° 45' 45.42"
基準点 1	
基準点 2	
基準点 3	
基準点 4	
A	N 35° 02' 31.93"
	E 135° 45' 49.69"
B	N 35° 02' 31.60"
	E 135° 45' 49.80"
C	N 35° 02' 32.24"
	E 135° 45' 49.90"
D	N 35° 02' 31.77"
	E 135° 45' 49.72"
E	N 35° 02' 31.95"
	E 135° 45' 50.20"

■平面図 (調査範囲、調査地点)



2012年4月19日 10:00
 水位観測所 北山大橋
 水位 +0.22m

■スケッチ



■観測結果

観測地点	水深 (m)	流速 (m/s)	水温 (°C)	河床材料	代表粒径 (mm)
A	0.75	1.05	9.60	砂	-
B	0.60	1.12	9.60	砂礫	φ 100
C	0.25	1.11	9.60	砂礫	φ 100
D	0.19	0.97	9.60	砂礫	φ 100
E	0.48	0.99	9.60	砂礫	φ 30

■生物調査結果

確認種	個体数	確認種	個体数
主な植生		底生生物	
魚類		昆虫類	

■モニタリング時の気づき (自由記載)

(記載例)

- ・4/12以降、降雨はなく水位はこの1週間、0.22m程度であった。(水位データより)
- ・A~B地点の木杭、捨石にカワニナを確認した。

⑤ 鴨川・高野川 中州等のモニタリングシート (2/2)

施工箇所	鴨川 北大路橋下流中州	施工年度	2012年2月
モニタリング日時	2012年4月19日	天候	曇り
		気温	℃ (正午)
		実施者	(株)建設技術研究所 白井

■定点写真 P1



【コメント】

■定点写真 P2



【コメント】

■定点写真 P3



【コメント】

■定点写真 P4



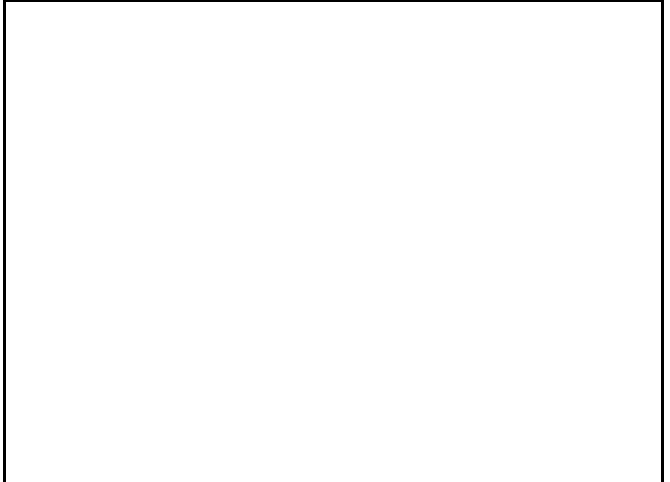
【コメント】

■生物の生息状況①



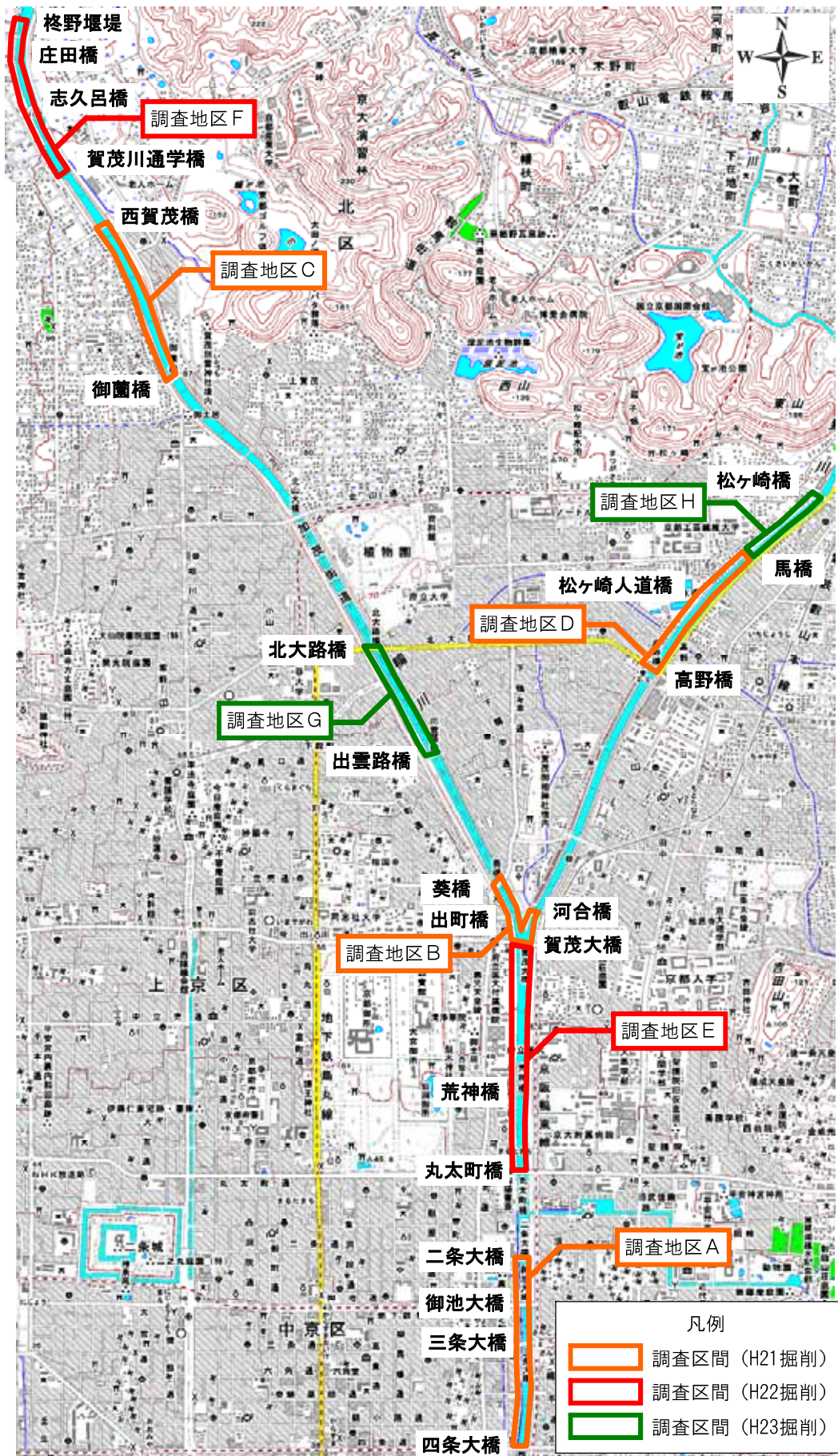
【コメント】
カワニナ

■生物の生息状況②



【コメント】

中州除去工事に係る環境調査について（調査位置図）



中州除去工事に係る環境調査について（底生動物）

(1) 調査地区

調査地区名	調査区間	掘削年度
調査地区A	四条大橋～二条大橋	H21
調査地区B	賀茂大橋～葵橋、賀茂大橋～河合橋	H21
調査地区C	御蔭橋～西賀茂橋	H21
調査地区D	高野橋～馬橋	H21
調査地区E	丸太町橋～賀茂大橋	H22
調査地区F	賀茂川通学橋～柊野堰堤	H22
調査地区G	出雲路橋～北大路橋	H23
調査地区H	馬橋～松ヶ崎橋	H23

(2) 調査地区別の掘削工事期間と底生生物調査の実施時期

調査地区A		H24.9~10
調査地区B		H24.9~10
調査地区C		H24.9~10
調査地区D		H24.9~10
調査地区E		H24.9~10
調査地区F		H24.9~10
調査地区G		H24.9~10
調査地区H		H24.9~10

※) 表中の赤文字は予定。

(3) 調査結果

①種数

○総種数では、調査地区による相異はあるものの、掘削直後に減少傾向を示している。その後は調査地区により、増減傾向は異なる。

○いずれの調査地区においても、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目が高い割合を占めている。

②個体数

○総個体数では、掘削直後に減少傾向を示している。その後は調査地区により、増減傾向は異なる。

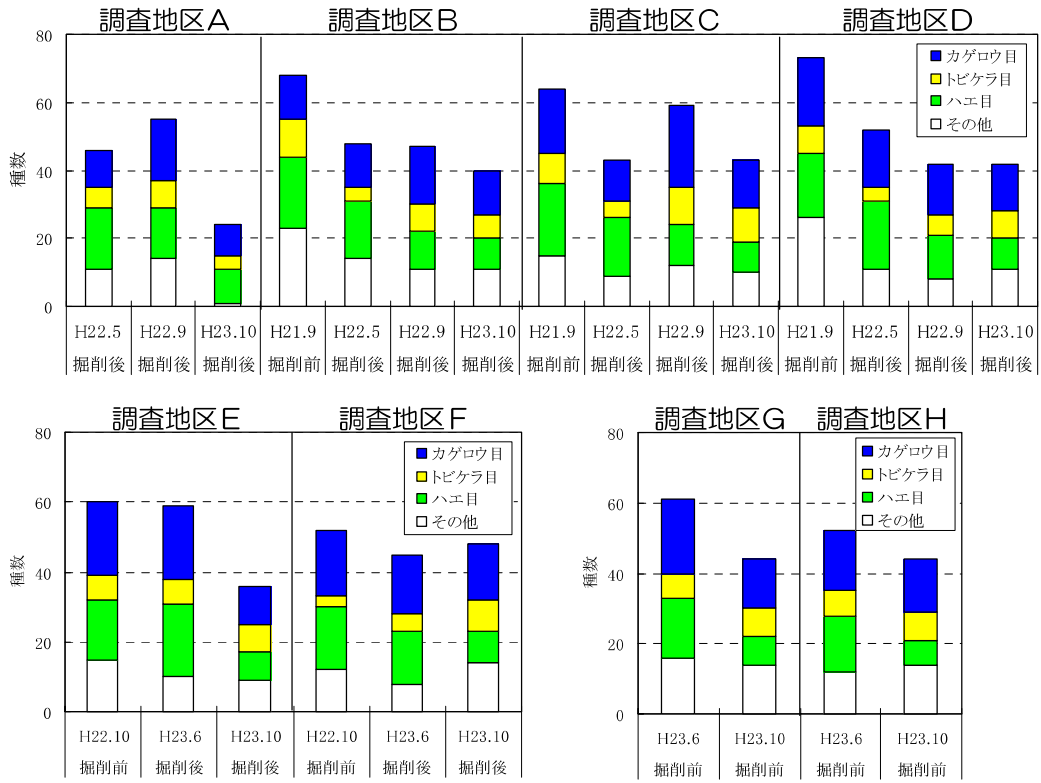
○いずれの調査地区においても、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目が高い割合を占めている。

③調査結果の分析

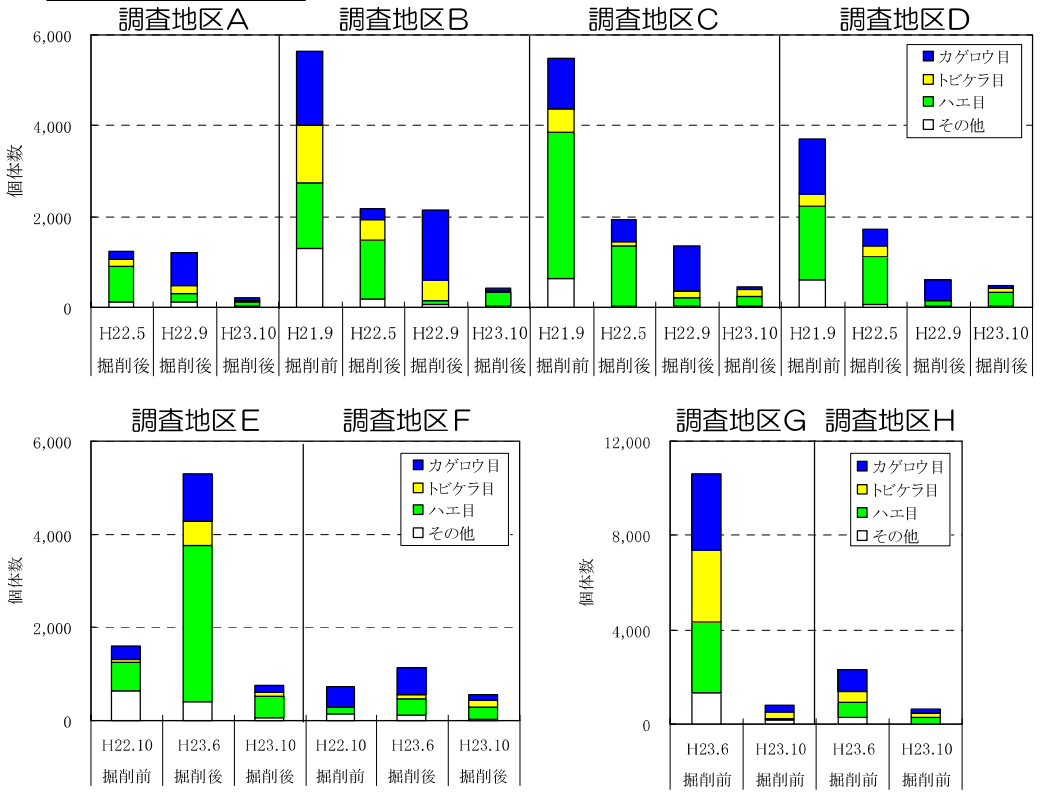
○掘削直後は、生息場所の改変により、種数、個体数とも減少傾向を示したと考えられる。

○掘削前後において、特別な水環境を好む種や、移動性の低い固着型から移動性の高い遊泳型の生活様式の種が幅広く生息しており、生息域の多様性が維持されているものと考えられる。

底生生物の種数



底生生物の個体数



中州除去工事に係る環境調査について（植物）

(1) 調査地区

調査地区名	調査区間	掘削年度
調査地区A	四条大橋～二条大橋	H21
調査地区B	賀茂大橋～葵橋、賀茂大橋～河合橋	H21
調査地区C	御蔭橋～西賀茂橋	H21
調査地区D	高野橋～馬橋	H21
調査地区E	丸太町橋～賀茂大橋	H22
調査地区F	賀茂川通学橋～柊野堰堤	H22
調査地区G	出雲路橋～北大路橋	H23
調査地区H	馬橋～松ヶ崎橋	H23

(2) 調査地区別の掘削工事期間と植物調査の実施時期

調査地区A	● 秋季 (H21. 9. 5～6)	←→ 中州除去 (H21. 11～H22. 3)	● 秋季 (H22. 9. 6)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	
調査地区B	● 秋季 (H21. 9. 5～6)	←→ 中州除去 (H21. 11～H22. 3)	● 秋季 (H22. 9. 6)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	
調査地区C	● 秋季 (H21. 9. 5～6)	←→ 中州除去 (H21. 11～H22. 3)	● 秋季 (H22. 9. 6)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	
調査地区D	● 秋季 (H21. 9. 5～6)	←→ 中州除去 (H21. 11～H22. 3)	● 秋季 (H22. 9. 6)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	
調査地区E			● 秋季 (H22. 9. 30)	←→ 中州除去 (H22. 12～H23. 3)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10
調査地区F			● 秋季 (H22. 9. 30)	←→ 中州除去 (H22. 12～H23. 3)	● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10
調査地区G				● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	
調査地区H				● 秋季 (H23. 10. 1～3)	H24.9～10	

※) 表中の赤文字は予定。

(3) 調査結果

①種数

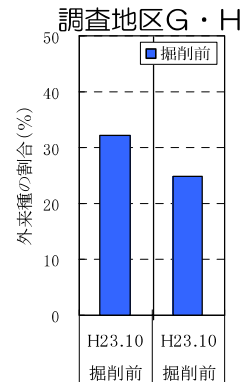
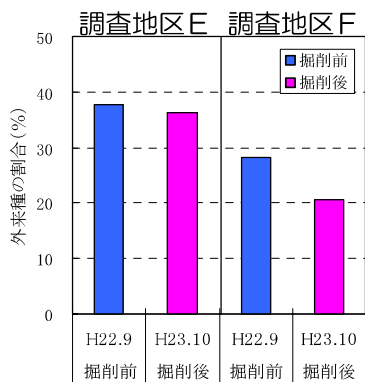
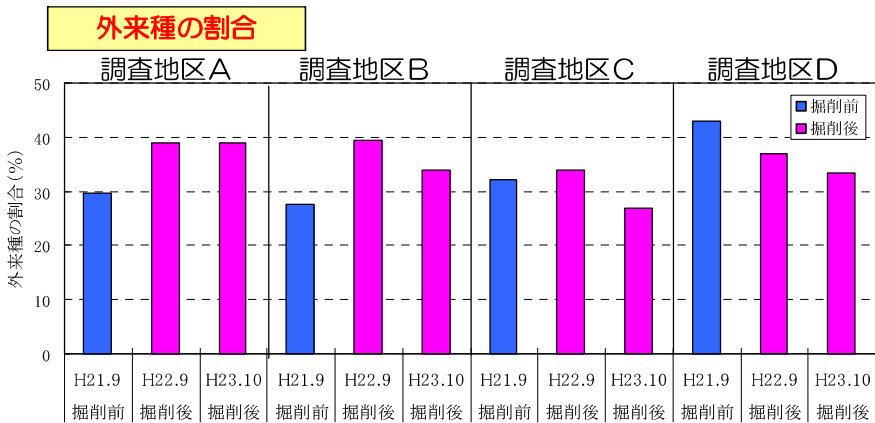
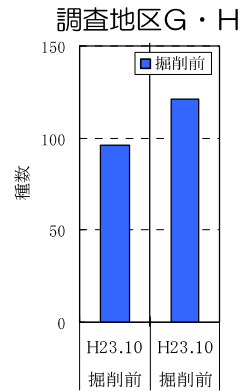
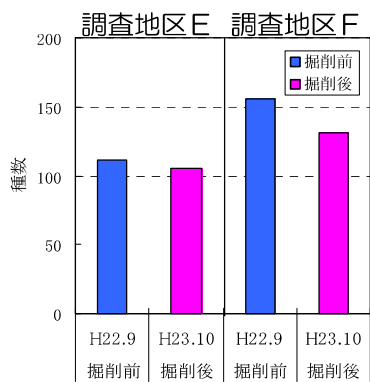
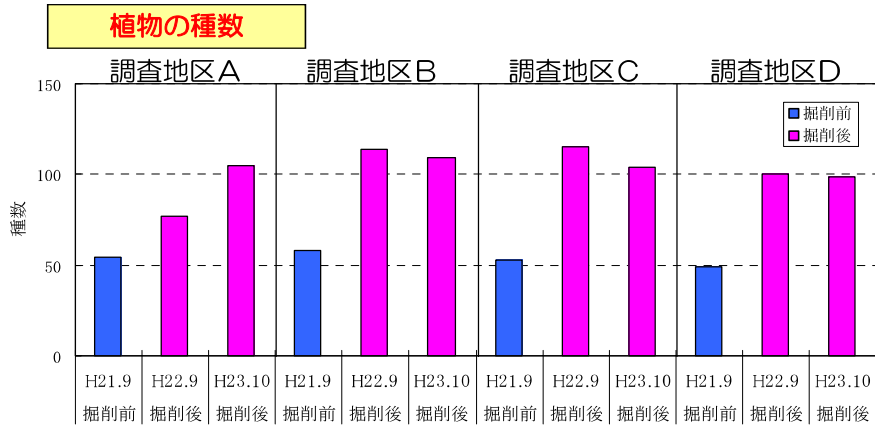
○総種数では、掘削直後に調査地区 A、B、C、D で増加傾向、調査地区 E、F では減少傾向を示しているものの、他の地区と同レベル程度の種数が確認されている。その後は、調査地区により、増減傾向は異なる。

②外来種

○外来種の割合は、掘削直後に調査地区 A、B、C で増加傾向、調査地区 D、E、F で減少傾向を示している。その後は、調査地区により、増減傾向は異なる。

③調査結果の分析

○総種数では、掘削直後に増加及び横這い傾向を示しており、中州管理後の裸地に一年生草本が侵入・定着し、一定レベルの種数に増加、安定しているものと考えられる。



ホタルの飛翔調査結果について

ホタル飛翔状況調査の結果について

調査区間

鴨川（丸太町橋～柗野堰堤）、高野川（鴨川合流点～松ヶ崎橋）の全域におけるホタルの飛翔数を目視により調査

調査時期

平成23年6月13日、6月24日、7月1日の3日間

調査結果

調査区間の全域におけるホタルの生息を確認

各区間の確認数（6/24）は下記のとおり 確認数が最大の日のデータ

鴨川（柗野堰堤～北山大橋）	29匹 / 3, 190m	(0.91匹 / 100m)
鴨川（北山大橋～賀茂大橋）	20匹 / 2, 680m	(0.75匹 / 100m)
鴨川（賀茂大橋～丸太町橋）	7匹 / 1, 265m	(0.55匹 / 100m)
高野川（松ヶ崎橋～高野橋）	18匹 / 1, 315m	(1.37匹 / 100m)
高野川（高野橋～賀茂大橋）	6匹 / 1, 680m	(0.36匹 / 100m)

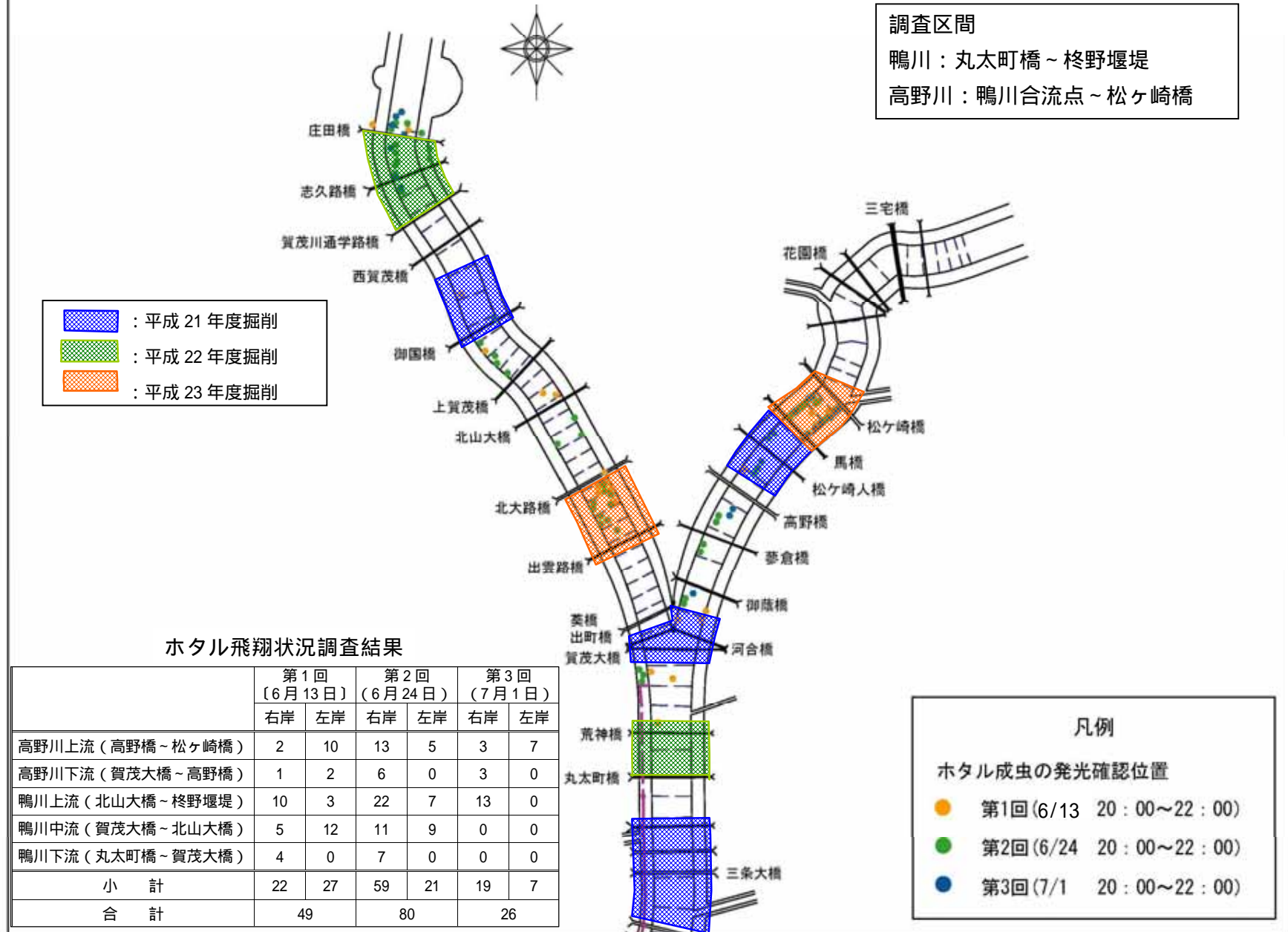
（参考） 龍谷大学 遊磨先生HPより

鴨川（柗野堰堤上流）	H22 10匹 / 100m	H23 3匹 / 100m
高野川（八瀬）	H22 14匹 / 100m	H23 7匹 / 100m

初回調査のため経年変化は不明であるが、聞き取り調査で平成23年度の確認数は少ないとの情報があった。

龍谷大学の調査結果によると、工事の影響のない上流箇所においても例年に比べて平成23年度の確認数は少ない傾向であった。

平成 23 年度ホタル飛翔状況調査結果



ホタル（幼虫）の生息状況調査について

鴨川・高野川の中州等除去工事に先立ち、平成23年度工事実施予定箇所の一部区間においてホタル（幼虫）の生息状況調査を自主研究として実施

調査箇所

鴨川 北大路橋下流

高野川 松ヶ崎橋下流

調査日時

平成23年12月10日（土）

調査方法

自主研究として、ホタルの飛翔数の多い箇所についてホタルの幼虫を調査

調査メンバー

京都府河川課、京都土木事務所、コンサルタント

調査結果

鴨川では、落差工下流の中州にホタルの幼虫を多数確認。

高野川では、飛翔情報が多いものの水性生物の気配も少なく確認出来ず。

鴨川でも一つ上流の落差工付近ではカワニナやホタルは1匹も見つからず、ほんの少しの環境の違いがホタルの生息に影響していることを確認。

